

よく知ろう 「レジオネラ症」と お風呂の衛生管理



知らないと危険!

きちんとした衛生管理体制を、
今すぐ整えて実行しましょう。

レジオネラ症は 死亡者が発生する感染症です。

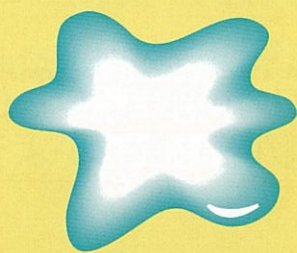
●レジオネラ症での死亡例 が発生しています。

レジオネラ症は、レジオネラ属菌が原因で起こる感染症です。急激に重症になって、死亡する場合もあるレジオネラ肺炎と、数日で自然に治る場合が多いポンティアック熱に分けられます。

レジオネラ肺炎は、乳幼児や高齢者、病人など抵抗力が低下している人や、健康人でも疲労などで体力が落ちている人などが発病しやすいといわれています。

**施設側の管理責任が
問われるなど
大きな問題が生じています。**

レジオネラ症



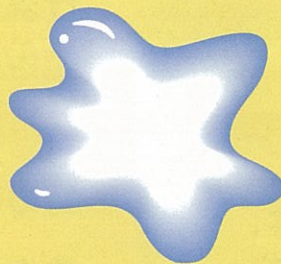
レジオネラ肺炎

●主な症状

- ・高熱・呼吸困難
- ・筋肉痛・吐き気
- ・下痢・意識障害

●特徴

急激に重症になり
死亡することもある



ポンティアック熱

●主な症状

- ・発熱
- ・寒気
- ・筋肉痛

●特徴

一般に軽症で数日で
治ることが多い

きちんと衛生管理されていない
入浴施設などが、感染源になっています。

●エアロゾルが感染源です。

レジオネラ属菌は、入浴施設などの水を使用する設備に付着する生物膜（ぬめり）に生息する微生物の体内で大量に繁殖します。

人への感染は、これらの衛生管理の悪い設備から発生したエアロゾルを吸入することによって感染することが知られています。

レジオネラ症は、人から人へは感染しません。

レジオネラ属菌とは

レジオネラ属菌は、土の中や河川、湖沼など自然界に生息しています。微生物などに寄生し20～50℃で繁殖します。

したがって、我々の身の回りでは、冷却塔水や循環式浴槽水などで多く検出されます。



徹底した衛生管理で防げます。

入浴施設での衛生管理

入浴施設を安心して利用できるよう、レジオネラ症の発生防止のため、衛生管理を徹底しなければなりません。そのためには、次のような点に注意します。



管理記録

各施設の自主的測定結果に基づく管理計画を立てて実施し、消毒・換水・清掃などの記録をつけます。細菌検査結果とともに保存します。

細菌検査

レジオネラ属菌の検査は、衛生管理が適切に行われているかどうかを確認するためのものです。

- 衛生状態に応じて実施し、検査結果は3年間保存します。
- 細菌検査の依頼は近くの保健所に問い合わせれば、検査機関を紹介してもらえます。

残留塩素測定

入浴中の遊離残留塩素の濃度は常に変化しています。そのため、遊離残留塩素濃度を維持できるように、頻繁に測定を心がけます。その遊離残留塩素濃度を目安として、通常0.2~0.4mg/L程度を保ち、かつ1.0mg/Lを超えないよう努めます。

- 塩素剤は、湯がろ過器内に入る直前に注入(投入)します。
- 温泉水等を使って塩素系薬剤を使用する場合には、温泉水等に含まれる成分と塩素系薬剤との相互作用の有無などについて、事前に十分な調査を行ってください。

汚染防止

汚染防止の ために

衛生管理を行う場合、
その施設の利用状況や設備によって
注意すべき点が異なります。
ここでは「貯湯タンク」
「浴槽・ろ過器・循環配管」
「気泡発生装置・ジェット噴射装置・
打たせ湯・シャワー等」について、
レジオネラ症防止のための
衛生的な管理方法を紹介します。



貯湯タンク

浴槽
ろ過器
循環配管

気泡発生装置
ジェット噴射装置
打たせ湯
シャワー等

入浴者に

のための施設・機器管理の

問題点

貯湯タンクの中や配管では、お湯の滞留時間が長いため、低い水温ではレジオネラ属菌が繁殖しやすい環境となります。そこで、次のような注意が重要となります。

対処方法

- 貯湯タンクは、湯温を60℃以上に保つなど貯湯槽内でレジオネラ属菌が繁殖しないようにすること
- 生物膜(ぬめり)の状況を監視し、貯湯槽内の生物膜(ぬめり)の除去を行うための清掃および消毒を行うこと

問題点

レジオネラ属菌は生物膜(ぬめり)に生息します。浴槽・ろ過器・循環配管の内壁に付着する生物膜(ぬめり)に生息する微生物などに寄生し繁殖します。そのため、浴槽・ろ過器・循環配管では、次のような管理をしてください。

ろ過器・循環配管の対処方法

- 1週間に1回以上、ろ過器および循環配管の洗浄および消毒をすること

洗浄実績例(高濃度塩素処理の一例)

時間	22	23	0	2	4	6	7	8	9	備考
洗浄剤投入	○									
循環	←									4時間以上
中和剤投入						○				
水質検査						○				残留塩素1mg/L以下
循環器逆洗						↔				
水抜き							↔			死骸の排出
浴槽清掃								↔		清掃後の汚水は排出
塩素投入									○	
水張り									↔	

(注) 過酸化水素等を使用する場合には、専門業者に依頼する必要があります。

問題点

気泡発生装置(ジャグジー)・ジェット噴射装置・打たせ湯・シャワー等は、エアロゾルを発生します。そのため、エアロゾルにレジオネラ属菌が含まれることがないように、次のことに注意することが重要です。

対処方法

- 浴槽に気泡発生装置等を設置している場合、連日使用している浴槽水を使用しないこと
- 打たせ湯およびシャワーには、循環している浴槽水を用いないこと

対する注意

入浴者に対しても汚染防止のために、注意書き等で呼びかける必要があります。

チェックポイント

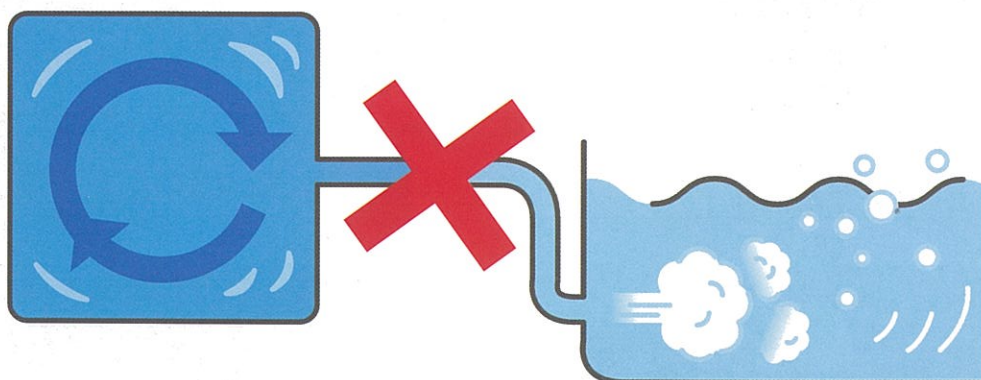


浴槽の対処方法

- 満ばいの状態を保ち、溢水させ、清潔に保つこと
- 原則毎日完全に換水して、浴槽の清掃を行うこと。ただし、このことができない場合でも、1週間に1回以上完全に換水して、浴槽の清掃を行うこと



(注) その際、換水のみでは十分ではなく、ろ過器や循環配管内等に付着する生物膜(ぬめり)を除去しない限り、レジオネラ属菌による浴槽水の汚染を防止できないことにご留意ください。



入浴施設側から
す。

● 身体を洗ってから入浴する

レジオネラ症患者が発生した場合

入浴施設においてレジオネラ症と疑われる患者が発生した場合、その施設およびその近隣の施設から、さらにレジオネラ症患者が発生することのないように対処する必要があります。

施設の現状保持や使用の禁止など、原因究明に協力しなければなりません。

また、独自の判断で消毒剤投入等の処理を行うと、原因究明が進まず営業再開が遅れることもあるので特に慎重な行動が要求されます。

対処方法

- 浴槽など施設の現状を保持したまま、速やかに所轄の保健所へ連絡します。



- 独自の判断で浴槽内等への消毒剤の投入はいけません。



- 入浴施設の浴槽の使用を中止します。

